

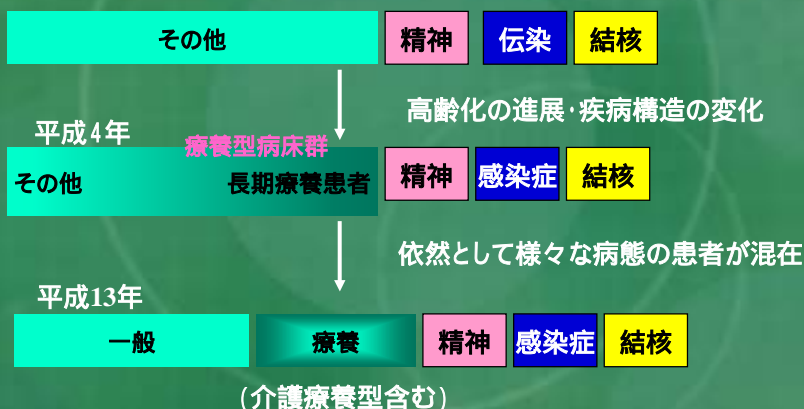
# 長期療養型病院におけるMRSA対策の現状

医療法人永広会  
感染管理認定看護師 森下 幸子

## 療養病床と一般病床との違い

平成13年第4次医療法改正で定義

(病床区分の届出の最終期限は平成15年8月31日)



療養病床とは、長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床

## 療養病床と一般病床,介護施設の違い

	医師	看護職員	入院基本料の特徴
一般病床	16:1	3:1	平均在院日数による”縛り”
療養病床	48:1	3:1	平均在院日数ではなく、包括化
介護療養型医療	48:1	6:1	介護保険
介護老人保健施設	1	10:1	介護保険
特養	?	100:3	介護保険

療養病床には、医療保険病床と介護保険病床がある  
 リハビリの必要度が高く、医療必要度が高ければ医療保険病床  
 医療定期監視が必要だが安定し介護が中心であれば介護保険病床

## 当グループが提供するサービスの内容

急性期病院から転院  
 発症から3～6ヶ月

予防  
健康増進

急性期  
ケア

回復期  
ケア

維持期  
ケア

終末期  
ケア

遺族  
ケア

はびきのヴィゴラス  
eudynamics

島田病院

八尾はぁとふる病院

介護老人保健施設 悠々亭

在宅

訪問看護ハートパーク ヘルパーステーション悠々亭

相談:在宅介護支援センター悠々亭

相談:介護サービスセンター ゆうゆう亭・はぁとふる

通所:通所リハビリ・通所介護



(介護保険)

(医療保険)

介護療養型

回復期リハビリ  
テーション病棟

医療施設

54床

55床

発症後2週間～  
3ヶ月以内

入所療養介護 100床

短期入所療養介護

通所リハビリ: 1日50人

## 長期療養型病院の微生物検出状況

2004.12.1~2005.5.31

順位	総計	膿	呼吸器系	尿路
1	緑膿菌	MSSA	緑膿菌	大腸菌
2	MSSA	Corynebacterium sp	MSSA	緑膿菌
3	腸球菌	緑膿菌	肺炎球菌	<b>MRSA</b>
4	大腸菌	<b>MRSA</b>	Corynebacterium sp	E.cloacae
5	<b>MRSA</b>	CNS	<b>MRSA</b>	CNS

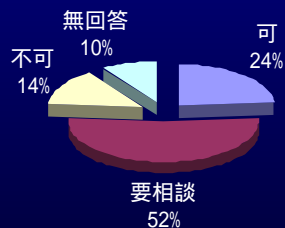
『まるめ』のため、検査件数が低い  
経験的に抗菌剤治療を行っている傾向が強い

# M R S A患者の受け入れに関する調査

南河内圏域地域の病院情報より: アンケート調査

37病院中21病院の回答: 回答率57%

平成16年 M R S A入院患者の受け入れについて

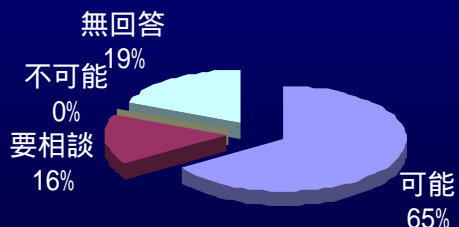


要相談の詳細として「感染症状」の有無が多い

# M R S A患者の受け入れに関する調査

羽曳野市介護サービス調査より

訪問看護・介護のM R S A患者受け入れについて

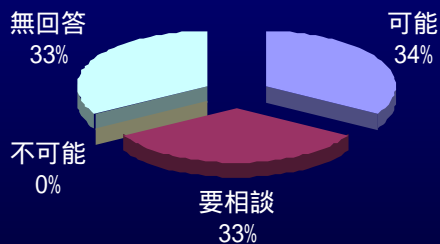


状況に応じる、ヘルパーの感染対策を認めてもらえるのであれば、医師と相談などコメント有り

# M R S A患者の受け入れに関する調査

羽曳野市介護サービス調査より

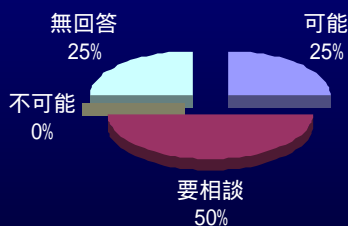
通所サービスのM R S A患者受け入れについて



# M R S A患者の受け入れに関する調査

羽曳野市介護サービス調査より

特別養護の入所においてM R S A患者受け入れについて



診療情報提供書のコメントあり

介護老人保健施設は100%受け入れ可能と答えている

## 院内教育とトレーニングを 実践する

- 教育Education
  - 手洗いはなぜ必要か？
  - 通過菌と常在菌など
- 訓練Training
  - 手洗いの方法や手順



## ICNとして 院内教育と同時に地域への教育と連携を実践

- ・大阪府藤井寺保健所主催「感染症対策講習会」開催(2005.2.17)  
対象は、**八尾・藤井寺・富田林保健所管内の介護保険施設職員**とし、約100名の出席であった。  
テーマは、スタンダードプリコーションとし手洗いとPPEのトレーニングを行った。
- ・八尾市介護保険事業者連絡協議会主催「研修会」開催(2005.6.22)  
対象は、**八尾市介護保険事業者の管理者と職員**とし約100名の出席であった。テーマは、スタンダードプリコーションとした。
- ・感染管理コース開催(2005.6.25～11.26)  
対象は、**近隣の病院に勤務する感染管理に興味のある看護師**  
院内職員10名と院外14名と計24名で始めました。

## おわりに

- 長期療養型病院の入院は、急性期病院からの紹介が多くを占めている。
- 長期療養型病院や介護施設において、多職種が直接ケアを行うため、院内トレーニングが重要である。
- 介護施設では、トレーニングを受ける機会が少なく感染症に対して『自信がない』のも事実である。
- 介護施設でのアウトブレイクが話題となり、行政も解決に乗り出している
- 地域で連携して、感染対策を実践することが求められている